

# 北海道美唄尚栄高等学校

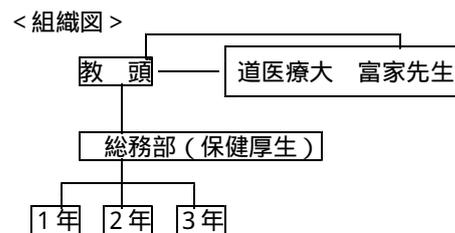
課程 全日制  
 学科 総合学科  
 生徒数 365名

## 1 取組の特徴

総合学科及び専門学科等における体験的な取組を活かし、生徒のコミュニケーション能力や人間関係構築力の育成を図る。

## 2 取組のねらい

これまでの課題からコミュニケーション能力を育成するための取組をより多く実施することが必要であることを確認した。今年度は体験活動の機会を確保し、日常の教育活動において生徒の自己有用感や自尊感情を育成することに重点を置いた。



## 3 取組の経過

- |   |                                   |
|---|-----------------------------------|
| 4月 他校生徒会との交流会                               | 10月 生徒会執行部リーダー研修会                 |
| 5月 ふれあい看護体験<br>交通安全集会<br>校内意見発表会<br>交流パーティー | チャレンジショップ<br>性教育講座<br>課題研究発表会     |
| 6月 1年次宿泊研修における集団カウ<br>セリングピア・サポート)の実施       | 11月 職業説明会                         |
| 7月 携帯電話マナー教室                                | 12月 生産物販売会                        |
| 9月 社会体験実習                                   | 1月 市内ボランティア                       |
| 特別支援学校スポーツ交流会                               | 2月 子ども理解支援ツール「ほっと」実施<br>ファッションショー |

## 4 取組の内容

### 1 宿泊研修

- (1) 日 時 平成24年6月22日(金)～24日(日)
- (2) 場 所 国立ひだか青少年自然の家
- (3) 対 象 1年次生130名(男子70名、女子60名)
- (4) ねらい 高校生活初期の段階で規範意識や集団帰属意識を高める。集団生活を通して、他への思いやりの心を伸ばし、今後の学校生活の基礎を強固にする。
- (5) 内 容 集団での研修活動やスポーツ活動、自然体験活動等
- (6) 成 果 自然の家職員を講師としたピア・サポートを初め、野外炊事やクラス対抗綱引き・登山などを通じて、自己開示の大切さや集団行動の楽しさに気付くことができた。



### 2 チャレンジショップ

- (1) 日 時 平成24年10月15日(月)10:00～13:00
- (2) 対 象 商業クラブ3年生16名、2年次生15名 計31名
- (3) ねらい 販売会の企画・運営による組織作りやコミュニケーション能力を育成する。



(4) 内 容 美唄市内の空き店舗を利用し、全国各地の特産品販売会の企画・運営

(5) 成 果 4月から生徒が商品の情報を収集し、電話等により製造元や販売元と直接交渉することで社会性やコミュニケーション能力の向上につながった。



### 3 ファッションショー（SDプロジェクト）

(1) 日 時 平成25年2月9日（土）13：30～14：30

(2) 対 象 生活デザイン科3年生12名

(3) ねらい 課題研究（通年）における成果発表のための企画・立案を通して、生徒の人間関係構築力や協調性、自己有用感・自己肯定感を育成する。

(4) 内 容 生徒が製作した衣装を用い、自らがモデルとして出演するファッションショー



(5) 成 果 1年間を通じて取り組み、衣装を完成させることで、衣装製作技術が向上して、自信を身に付けるとともに、協調性や自己有用感を育成することができた。3年生は達成感を味わい上級生としての指導力が備わり、2年生は次年度に向けた目標を明確に持つようになった。



### 4 子ども理解支援ツール「ほっと」の集計結果（1年次生）

(1) 結 果

- ・「仲間づくり」「拒否」「助言や注意」「リーダーシップ」の項目では男女差が大きかった。また、「仲間づくり」では、男女間で10ポイント開くクラスもあった。
- ・「緊張」の数値は41.6となり、全道平均に比べて緊張の度合いが大きかった。

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	挨拶感謝	発言説明	仲間づくり	思いやり	拒否	緊張	賞賛	ルールやモル	助言や意	自律	学業	リーダーシップ	相談
年次	51.8	48.3	50.0	52.0	51.6	41.6	51.2	52.7	51.3	51.2	49.5	51.4	50.3
男子	52.2	49.3	52.3	53.0	53.2	42.5	50.9	53.5	52.9	52.4	49.6	53.4	50.6
女子	51.4	48.0	48.4	51.3	49.0	40.0	50.9	52.3	49.0	50.3	49.1	50.2	49.8

## 5 次年度に向けて

### 1 成果

(1) 中途退学者数及び不登校生徒数の推移

中途退学者数・不登校生徒数ともに、前年度とほぼ同数であった。

(2) その他の指標による評価

保健室利用者数は、2年次生を中心に前年度と比較して大きく減少した。

(3) 生徒の変容

様々な体験活動を通じて、自他を意識した発言をしたり集団生活のルールを理解し行動したりするなど、適切な人間関係づくりが少しずつできるようになった。

### 2 課題

本校は総合学科への転換が進行中であり、平成24年度は、1・2年次生は総合学科、3年生は普通科と農業、家庭、商業の専門学科が混在していた。そのため、各学科のクラブ活動を中心とした独自の取組が多かった。

例年、1年次生の中途退学者数や不登校生徒数が多いことを踏まえ、入学後すぐに、個人面談や「ほっと」等により生徒の実態把握につとめ、体験活動等を通じてコミュニケーション能力の育成を図る機会を設定してきた。今後は、質の向上及び量の確保の両面から留意する必要がある。

### 3 次年度に向けて

本事業への取組を通じて、校内研修会による教師の教育相談スキルの向上や体験活動の重要性、成果等について確認していることから、今後は、より多くの教育活動において教師が積極的に生徒に関わり、生徒のコミュニケーション能力や人間関係形成能力の育成に向けて体験的活動の充実に努めたい。